

| 町勢状況       |        |
|------------|--------|
| 昭和48.5.1現在 |        |
| 世帯数        | 1,470戸 |
| 人口         | 4,942人 |
| 男          | 2,292人 |
| 女          | 2,650人 |

**広報たしる**

田代町総務課編集 毎月5日 1600部発行

No. 243

昭和48年

6月号



災害に備えよう  
備えあれば憂なし

✕……6月11日は入梅で、暦の上では梅雨にはいります。実際……✕

✕……の梅雨入りは年によって多少違いますが、概ね6月中旬頃……✕

✧……から7月上旬頃まで雨天が続き、時には豪雨となって大き……✧

✕……な災害を起します。……………✕

✕……台風も6月頃から発生し始め、年に1～2回は本土に上陸……✕

✧……し、大きな災害を起しています。……………✧

✧…… 6 月からいよいよ災害の季節にはいります。……………✧

✕……災害に備えて、不断から万全の対策を考えておきましょう……✕



|       |     |          |       |       |                  |                |                     |          |       |       |      |
|-------|-----|----------|-------|-------|------------------|----------------|---------------------|----------|-------|-------|------|
| 27    | 26  | 20       | 19    | 18    | 15               | 11             | 10                  | 7        | 5     | 4     | ⑤    |
| 水     | 火   | 水        | 火     | 月     | 金                | 月              | 日                   | 木        | 火     | 月     | (曜)  |
| 農業委員会 | 委員会 | 農家総合指導推進 | 民生委員会 | 教育委員会 | 勤労者体力テスト<br>定例議会 | 民生委員推せん委<br>員会 | レ<br>大隅地区社会人バ<br>レー | 教育委員学校視察 | 婦人会長会 | 仔牛セリ市 | (行事) |

# 六月のこよみ

田代町は今年から向う五年間農協や農業委員会等農相談所その他関係機関と一諸になつてこの事業を進めることになりました。

農業をとりまく情勢は益々きびしさを加えてまいります。これに対応して我が家の生活設計を樹てていかなければなりません。

農家総合活動とは農家経済の安定向上を早期に実現するため町が中心となり関係機関の協力のもとに地域の農業者意識を高め農家に対する徹底した総合指導活動を推進するもので内容としては

一、自立経営（規模拡大）  
志向農家  
二、安定兼業志向農家  
三、離農転職志向農家  
をそれぞれの農家の意向によつて分類して諸制度の適用を受けて農業部門の経営合理化実践への誘導を行う事業です。

たとえば離農転職志向農家には離農補助金がうけら

れます。また自立経営志向農家には低利の土地取得資金が優先して貸付けられます。そのためには先ず家族みんなで良く話しあいましょう。そして

一、今後も農業で自立できるように規模を拡大し技術や経営の合理化を進め農家の家にならう。

二、なにか適当な職があれば就職し経営を縮小して兼業を中心に幸せな家庭生活を築きたい。

三、経営が小さいので農業だけではとても生活できないので思いきつて農業をやめて他に転職し新しい生きかたをしたい。

このようなことが家族の話しあいでは決まりますが、たして思いどおりにいくかどうかという不安があります。誰か適切な助言してくれる人がほしいです。

田代町でも役場・農協・営農相談所・農業委員会・共済組合・職業安定所・た

ばこ耕作組合・森林組合等の職員で構成する農家総合指導班を編成し皆さんの志向をそれぞれの志向別に一人一人充分説明しあげ納得して戴きあらゆる制度事業を利用して「三三」の志向別に逐次指導いたします。この事業は「農家の方々の意向を充分聞きすることから始まりますが今年七月月上旬頃農家総合指導事業の推進座談会を小組合単位に開催し各農家の志向カードを作成してこれから農家指導を進めてまいりたいと思います。

今後の我が家の生活設計について充分話しあつて下さるようお願いいたします。

老後に  
生き甲斐を  
求めて

自然木育成にはげむ永寿会員  
最近老人問題が大きく取り上げられ、国も年金引上げ、老人医療費の無料化等老人福祉に積極的に取り組みつづけています。

然しながら幸福な老後は果してこのような生活面の保障だけで足りるというも

に精神的な満足感一即ち生き甲斐が必要であるといわれています。

生き甲斐のある老後とは

どのような老後であるかとなりますと、いろいろ難しいことになりませんが一つの生き方として、趣味を生かすこと、一つの仕事に打ち込むことは、手近な方法であると思います。

町はこのような考え方から、自然木の育成に趣味をもった永寿会員を対象にして、町内の石井幸雄さんと契約栽培の方法により、自然木育成希望者を募つた所二〇人の申込がありました。現在一人平均三アルの圃場に、クス、マテの苗木一、五四〇本が植えつけられ、すくすくと育つていきます。

ここで契約栽培の内容を簡単に説明しますと、植付後三年してから石井さんが時価で買取られますが、苗

木代はその時返済することにし、育成期間中の肥料、薬剤等の資材費、労賃として、一年目に一本当五〇円、二年目に六〇円の内金が支払われることになっていきます。従つて圃場さえ準備すれば後は労力だけで、三年目には相当の収入が得られるという仕組みになっています。

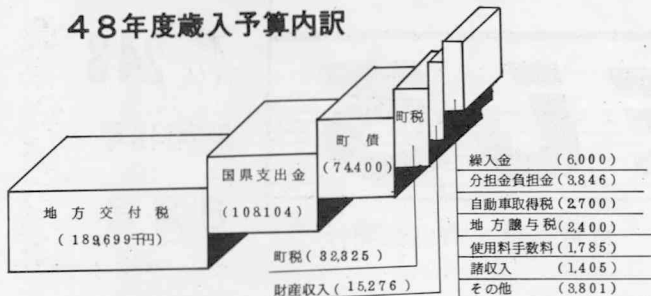
現在公害問題等がやかましく言われていますが、会員が育てた苗木が立派に成長して、都市の公害防止や公園住宅の緑化に大きく貢献することを考えますと、本当に意義のある仕事だと思ひます。

尚この事業は毎年続けられますので、今後もっと多くの人が参加されることを希望します。

## 農家経済の安定をはかる

農家総合指導活動推進事業のあらまし（一回）

## 48年度歳入予算内訳



## 歳出予算内訳（万円）

| 科目      | 予算額    | 構成比(%) |
|---------|--------|--------|
| 1議会費    | 1,395  | 3.2    |
| 2総務費    | 5,820  | 13.2   |
| 3民生費    | 3,405  | 7.7    |
| 4衛生費    | 944    | 2.1    |
| 5農林業費   | 13,092 | 29.7   |
| 6商工費    | 108    | 0.2    |
| 7土木費    | 6,844  | 15.5   |
| 8消防費    | 645    | 1.5    |
| 9教育費    | 8,382  | 19.0   |
| 10災害復旧費 | 768    | 1.7    |
| 11公債費   | 2,500  | 5.7    |
| 12予備費   | 200    | 0.5    |
| 合計      | 44,102 | 100.0  |

過疎対策事業を重点に  
総額四億四千万円の当初予算成立

四八年度当初予算は去る三月議会において可決成立しましたが、前年当初に比べ一億三八〇〇万円多い四億四、一〇二万円となり、本町としては初めて四億台を越えた予算になりました。本年度予算の重点施策としては過疎計画に掲げる1.道路交通の整備

2.義務教育施設の整備  
3.農林業の振興  
4.生活環境施設の整備  
以上四つが取りあげられ、これらを重点として予算が編成されています。以下予算の内容について説明いたします。

歳入  
次のグラフを見て載くとわかるとおり、総額四億四千万円の内、町民の皆様が負担して載る町税は全体の二割に満たない三、二〇〇万円程度で、この外財産収入、使用料手数料等町自体

で調達できる収入（自主財源）を合せても漸く二五%程度で、残りの七五%は国、県の補助金、町債（町の借入金）等に依存しています。歳入の中で最も多いのは地方交付税で全体の四三%を占め、国庫支出金、町債がこれに次いでいます。特に町債については、本年度七、四〇〇万円の借入を予定していますが、その約四割は過疎債で、残りが校舎建築その他の財源に充てられるものです。自主財源の極めて乏しい本町の財政にあっては、止むを得ない措置であり、過疎債等は償還金について国が補助する仕組みになっていますので、このような便利な町債を今後も活用したいと思ひます。



土木費、総務費の順となっています。

本年度の歳出予算は既に述べたとおり、過疎対策事業を重点に予算を編成されましたが、この外本年度は各種の予防接種費を無料とし又敬老年金支給額の引上げと支給対象の拡大をはかる等新規の施策も織り込まれています。

歳出予算の費目別内訳は次表のとおりとなっています。これによりまず農林業費が全体の約三割を占めて最も大きく、次に教育費は次のとおりです。

農林業関係  
農道 新設一線、舗装一線  
林道 新設一線  
農地造成 一ヶ所  
草地改良 二ヶ所  
大型茶工場 一ヶ所  
シラス対策事業 一ヶ所  
町道関係  
舗装三線（五、九二〇米）  
改良一〇（一、八〇〇米）  
教育関係  
屋体一、プール一、  
地区運動場一、  
生活環境関係  
子供広場 二ヶ所  
公園整備 一ヶ所  
消防関係  
防火水槽 二基  
消防詰所増築 一

## 町木・町花がきまる

最近都市や工場等の緑化や自然公園の設置等が真剣に考えられ、田代町でもたぐさんの山探りや、樹苗育成がなされていきます。

ご承知のように緑化に必要な樹木は一朝一夕にしてできるものではなく、増加する植木の需要に

如何にして応えるかが現在重要な課題となっています。昨年開催された太陽国体を契機とした花いっぱい運動も、今後未永く持続して私達の郷土を緑と花で飾り美しい自然環境をつくるため、田代町に最もふさわしい「町木」と「町花」の制定を計画し、広く町民の皆さんの意見を伺いました。

この結果、町木には「やまもも」町花には「ふじ」が決定されましたが、同時に補完的な町木として「いすのき」町花に「つつじ」が選定されました。

今後は「やまもも」は本町の緑の象徴として、「ふじ」は花の象徴として、町民に親まれより豊かな自然環境の保護育成に役立つことを心から希つてやみませ

ん。

木代はその時返済することにし、育成期間中の肥料、薬剤等の資材費、労賃として、一年目に一本当五〇円、二年目に六〇円の内金が支払われることになっていきます。従つて圃場さえ準備すれば後は労力だけで、三年目には相当の収入が得られるという仕組みになっています。

現在公害問題等がやかましく言われていますが、会員が育てた苗木が立派に成長して、都市の公害防止や公園住宅の緑化に大きく貢献することを考えますと、本当に意義のある仕事だと思ひます。

尚この事業は毎年続けられますので、今後もっと多くの人が参加されることを希望します。

# 河川愛護運動始まる

土木行政の推進にあたりまして、かねてからの協力に対し深く感謝申し上げます。

さて、梅雨期を目前にひかえ、今年度も河川行政の一環として県下一斉に河川愛護月間がもうけられることになりました。この運動も、町民各位のご協力により多大な成果をおさめてきておりますが、今年度もすでに五月二十日から始まり、時間を大切にしよう

六月十日は

## 「時の記念日」

六月十日は、約千三百年前、天智天皇の十年四月二十五日、初めて時計が使用されて時を知らせたという故事にちなんだもので、その日を太陽暦に直して大正九年に定められたものです。一日二四時間、人間の一生を時間に換算したら大変な時間になります。

その中で有効に使われた時間は果してどれ位の時間であるのか。今一度静かに省みてみたいものです。

昭和48年度の部落役員が次のとおり決まりました。役員の皆様ご苦労であります、1年間宜しくお願いします。

## 昭和48年度部落役員名簿

| 区分 | 部落名 | 小 | 組 | 合 | 長 | 副 | 小 | 組 | 合 | 長 | 婦 | 人 | 会 | 長 | 備 | 考 |
|----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下  | 馬場  | 釘 | 岡 | 直 | 敏 |   |   |   |   |   | 荻 | 原 | ヤ | ス |   |   |
| 東  | ノ   | 原 | 山 | 下 | 一 |   |   |   |   |   | 折 | 田 | の | り |   |   |
| 長  | 谷   | 松 | 元 | 田 | 順 | 徳 | 永 | 貞 | 三 | 美 | 永 | 田 | ネ | リ |   |   |
| 西  | 中   | 郡 | 迫 | 和 | 也 | 徳 | 永 | 村 | 福 | 雄 | 中 | 島 | チ | リ |   |   |
| 東  | 中   | 郡 | 荒 | 木 | 房 | 今 | 村 | 口 | 栄 | 則 | 右 | 正 | ア | マ |   |   |
| 橋  | ノ   | 口 | 福 | 留 | 初 | 宮 | 宮 | 園 | 秀 | 吉 | 湯 | ノ | 谷 | 洋 |   |   |
| 山  | 下   | 山 | 下 | 深 | 南 | 松 | 下 | 鉄 | 次 | 利 | 堀 | 本 | エ | ツ |   |   |
| 岩  | 崎   | 折 | 小 | 野 | 六 | 光 | 静 | 美 | 雄 | 繁 | 上 | ノ | 原 | キ |   |   |
| 表  | 小   | 野 | 折 | 小 | 野 | 上 | 東 | 鉄 | 等 | 男 | 横 | 田 | 村 | 清 |   |   |
| 折  | 山   | ノ | 口 | 上 | 元 | 園 | 五 | 次 | 利 | 清 | 雄 | 夫 | 宮 | 元 |   |   |
| 山  | 西   | 大 | 大 | 原 | 山 | 寺 | 横 | 原 | 井 | 村 | 田 | 森 | 元 | 川 |   |   |
| 東  | 大   | 大 | 大 | 原 | 山 | 寺 | 横 | 原 | 井 | 村 | 田 | 森 | 元 | 川 |   |   |
| 中  | 大   | 大 | 大 | 原 | 山 | 寺 | 横 | 原 | 井 | 村 | 田 | 森 | 元 | 川 |   |   |
| 新  | 内   | ノ | 牧 | 中 | 牧 | 中 | 牧 | 中 | 牧 | 中 | 牧 | 中 | 牧 | 中 |   |   |
| 重  | 戸   | 野 | 楠 | 元 | 忠 | 夫 | 美 | 仁 | 夫 | 義 | 吉 | 行 | 志 | 男 |   |   |
| 久  | 木   | 野 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |   |   |
| 盤  | 富   | 田 | 東 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |   |   |
| 富  | 平   | 石 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 |   |   |
| 柴  | 上   | 柴 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 | 立 |   |   |
| 上  | 原   | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 |   |   |
| 池  | 原   | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 | 原 |   |   |
| 瀬  | 戸   | 野 | 口 | 神 | 田 | 忠 | 義 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 |   |   |
| 瀬  | 戸   | 野 | 口 | 神 | 田 | 忠 | 義 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 | 夫 |   |   |
| 猪  | 鹿   | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 |   |   |
| 鳥  | 倉   | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 | 倉 |   |   |
| 早  | 瀬   | 大 | 中 | 原 | 輝 | 夫 | 早 | 瀬 | 正 | 夫 | 早 | 瀬 | 正 | 夫 |   |   |
| 郷  | ノ   | 原 | 松 | 崎 | 充 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 辺  | 志   | 切 | 近 | 川 | 義 | 範 | 近 | 川 | 正 | 人 | 近 | 川 | ミ | エ |   |   |
| 鶴  | 園   | 柳 | 田 | 忠 | 夫 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 花  | 瀬   | 官 | 行 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 麓  | 住   | 宅 | 山 | 崎 | 重 | 成 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 大  | 原   | 住 | 宅 | 中 | 村 | 剛 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 計  |     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

六月二十日までの一ヶ月間を、河川愛護月間と定め、この運動を実施することになりました。

この運動の目的は住民に對する河川愛護思想の普及と高揚を図り、河川に對する認識を高めることにより、河川愛護作業等への自発的参加を期待し、もって河川行政における住民との一体化を図ることにあります。

以上の趣旨からしても、また、環境の整備という面からしても、河川に汚物、汚水等を流すことのないよう自発的に協力方をお願い申し上げます。

町民みんなで守ろう  
自然の美ノ

## 押川熊次郎氏

### 春の叙勲

これは氏の永年に亘る地方自治、社会福祉に対する功績を認められたもので、町民と共に今回の榮譽に對し心からお祝いを申し上げます。

私達の郷土は大隅半島でも最も美しい自然に恵まれています。

### 守ろう

## 美しい自然を

この美しい自然は私達の祖先が、何百年という長い歴史の中で営々として守り育てて現在の私達に引継いだものです。

私達はこの偉大な遺産を傷つけることなく、後世の人々に引継ぐべき重大な責任と義務を負わされています。然しながら最近の自然木ブームにより、樹木や岩石の盗みが多くて困るという声を聞きます。そのようなことは許しがたい罪悪行為であり、自然破壊行為であります。

山を荒らすことは自らの良心を荒らすこととなります。郷土の美しい自然を守り育てるため、今後このような行為が絶滅することを心から希ってやみません。

## 原付・耕耘機

### 免許試験

とき 六月二十七日午前十時  
ところ 川原上築立公民館  
希望者は前日までに大根占警察署へ申請してください。

